

的な対応ができるより高度なプログラムの開発が必要であるといえる。

## まとめ

わが国で主に ADHD への支援的介入として開発されたペアレント・トレーニングのプログラムは、現在、他の発達障害また障害と診断されないがそれに近い特性をもつ子どもを対象にさまざまな機関や施設で実施されるようになってきている。それら実践の成果からはこのプログラムが単に子どもの行動変容を目的として行われるだけでなく、保護者や他の家族の支援のツールとしての有効性も認められている。一方、発達障害のある子どもの保護者が抱える問題としては、子どもの深刻な行動の障害に対する対処の不全や保護者自身の精神的疲弊も深刻で、このような状況で参加する保護者においてはより個別的な介入の方法が求められることが多い。今後のペアレント・トレーニングの在り方としては、この二極化したニーズに応えるべく、子どもの問題行動の発生を予防するような基本的なプログラムの開発と提供が求められるとともに、より行動の障害の対応しうるより個別性の高い高度な行動変容プログラム開発が求められているといえる。

## 引用文献

- 岩坂英巳・清水千弘・飯田順三 他 注意欠陥／多動性障害（AD／HD）児の親訓練プログラムとその効果について 児童青年精神医学とその近接領域, 43, 483-497, 2002.
- 厚生労働省 精神・神経疾患研究班：注意欠陥／多動障害の診断・治療ガイドライン作成とその実証的研究 1999-2001 年度研究報告書 2001.
- 中田洋二郎 発達障害とペアレント・トレーニング. 家族心理学年報, 25, 74-84, 2007.
- 中田洋二郎 発達障害のペアレント・トレーニング—短縮版プログラムの有用性に関する研究 立正大学心理学研究所紀要, 8, 55-63, 2010.
- 大隈紘子他 AD／HDの心理社会的治療：行動療法・親指導. 精神科治療学 17, 43-50, 2002.
- 大隈紘子・伊藤啓介監修 肥前方式親訓練プログラム AD／HDをもつ子どものお母さんの学習室. 二瓶社 2005.
- Schaefer, C.E. & Briesmeister, J.M. Handbook of Parent Training: parents as Co-Therapists for Children's Behavior Problems John Wiley & Sons. Inc., 1989.

## 自閉症スペクトラムへのペアレント・トレーニング

井上雅彦  
(鳥取大学医学系研究科)

### 1. 自閉症スペクトラムにおけるペアレント・トレーニング

応用行動分析学 (Applied Behavior Analysis: 以下 ABA とする) をベースにした自閉症へのペアレント・トレーニング (以下 PT とする) は療育アプローチの般化と維持を目的として 1960 年代から様々な ABA による療育プログラムに組み入れられてきた。

Lovass ら (1973) は入所施設において一年間 ABA の療育を受けた群 (PT なし群) と入所施設以外で ABA 療育を受け PT を受けた群 (PT 群) について療育を終結した 4 年後に追跡調査を行った。その結果、PT なし群と比較して PT 群は療育効果の良好な維持や発達が示された。これらの研究が契機になり、「親を共同治療者」として位置づけた PT を療育プログラムの中に組み込むことで療育効果の良好な般化や維持を期待するアプローチが拡大していった。PT の中で「共同治療者としての親」という位置づけがなされる中で、強化や消去、連鎖化、プロンプティングなどの ABA の基本的な技法の他に、親が家庭で子どもに教えるスキルは、身辺自立スキル、コミュニケーションスキル、社会的スキル、学習スキル、問題行動の低減など多様なものに広がり、最近では早期高密度介入 (Early Intensive Behavioral Intervention: EIBI) のプログラムや PECS (Picture Exchange Communication System: Bondy, 1994) など様々な療育プログラムの中に組み入れられるようになってきている。

### 2. 自閉症スペクトラムに対するペアレント・トレーニングの特徴

前述のように自閉症スペクトラムに対する PT は、知的障害を伴う自閉症児の療育トレーニングの般化と維持を促進するために導入・発展してきた歴史がある。一方、同じ PT でも DBD (disruptive behavior disorder: 破壊的行動障害) を対象にした PT (以下 DBD-PT) は、家庭における養育環境の崩壊や親子の相互交渉の悪循環が子どもの問題行動の生起に関係していることから、親のストレスや夫婦の機能などの家族の要因を評価し、親のかかわり方の変容だけでなくストレスマネジメントを含めた支援プログラムとして発展してきた。

Brookman-Frazee ら (2006) は、DBD-PT と自閉症スペクトラムを対象にした PT (以下 ASD-PT) 研究をレビューし両者の特徴を比較している。彼らは両 PT は、ABA を起源とし、ベースにしている点では一致しているが、互いの PT 論文は引用文献が全く異なっており、これら 2 つの PT 研究間に交流が乏しいことを指摘している。

DBD-PT では問題行動や社会的スキルの改善が主なターゲットとなり、そのため親子間の相互交渉の変容や養育スキルの改善が求められる。これに対し ASD-PT では問題行動に対しては機能的アセスメント (functional assessment) を通して問題行動の機能を同定し、それに代替するコミュニケーションスキル等の様々な適切な行動を獲得させることで治療することが主なターゲットとなる。また DBD-PT では、親のストレスや不安などの心理社会的問題が介入の主要な手続きや変数として扱われるのに対して、ASD-PT では子どもの行動変容が主要な変数となるため、親のストレスの改善はプログラム全体の副次的効果を示す指標として位置づけられることが多い (井上, 2011)。

近年、DBD-PT と ASD-PT は互いの要素を取り込みながら融合しつつある。今後は知的障害を伴わない ASD や ADHD との合併症例などを対象とした PT に対するニーズはより高まると考えられ、研究的にも親も含めたどのような症例に対して、PT の中にどのような要素を取り入れていくべきか検討するとともに両 PT の互いの要素をうまく融合させ発展させていく必要がある。

### 3. 自閉症スペクトラムを対象としたグループ・ペアレント・トレーニング(鳥取大学方式)

我が国での PT の実践はグループ学習形式をとるものが多く、特に知的障害を伴う自閉症スペクトラムを対象とした PT に関しては、家庭での療育を記録しそれを PT の中で話し合ったり、アドバイスを受けてたりしながら進めていく形式をとるものが多い。米国等の早期療育ではセラピストが家庭に訪問して対一の ABA セラピーを提供する形態が多い。このため PT も個別に実施せざるを得ないと考えられるが、集団で進めることでピア・カウンセリング的な効果や仲間作りの場としても貴重な場となると考えられる。

図1に鳥取大学井上研究室で行われている PT の例を示す。対象は知的障害、自閉症、その他の発達障害など、なんらかの障害の診断を受けている幼児期から児童期までの子どもを持つ親であり、一度の講座の人数は10名程度で8~9回の連続講座で構成されている。1回2時間を隔週で行い、前半の一時間を講義、後半の一時間をグループ演習の時間に充てている。プログラムの参加に関してはその目的、内容、費用、回数などについて十分な説明と同意が得られるようにする。グループで行うため、親が重篤な精神疾患などがなくグループで話し合うことができる状態であることを基準にしている。グループ形式での PT よりも個別面接が適している場合はそちらを紹介するようにしている。

表1 ペアレント・トレーニングのプログラムの例

回数	講義	グループワーク	ホームワーク
1	オリエンテーション	自己紹介	検査などの記入
2	ほめ上手になろう	いいところ探し	ほめようシートの実施
3	観察上手になろう	目標行動の設定 ほめようシートの発表と ふり返り	ほめようシートの実施
4	整え上手になろう	手続き作成表の作成 ほめようシートの発表と ふり返り	課題の実施と記録
5	伝え上手になろう	手続き作成表の修正	課題の実施と記録
6	教え上手になろう	手続き作成表の修正	課題の実施と記録
7	サポートブックを作ってみよう	サポートブックの作成	サポートブックの作成
8	まとめ	サポートブックの発表	

講義や演習は井上ら(2008)の「子育てが楽しくなる5つの魔法」子育て支援講座ワークブックに基づいて「ほめ方」「環境調整」「指示の出し方」「支援の方法」「課題分析」などの内容の講義とグループワークが実施される。グループワークとしては、日頃の悩みや地域の情報を交換するだけでなく、サポートブックを作成したり、自分の子どもに合わせて家庭で実施できる療育プログラムをスタッフと一緒に作成し(図2)、実際に家庭で実施し、記録した結果(図3)を持ち寄って他の参加者やスタッフとうまくいった点を共有したり、うまくいかなかった点について互いにアイデア提供を行う。

親が家庭で実施するプログラム自体は、幼児であれば「着替え」や「入浴」「洗面」「歯磨き」などの身近自立に関するものが多く、児童期では、「簡単な家事の手伝い」や「整理整頓」や「学校の宿題」などの日常生活の中で出会う課題が指導課題として選択されることが多い。またグループでの話し合い活動のテーマとしては「きょうだいへの接し方」や「教師との連携」などが参加者のニーズとしてよく取り上げられる。

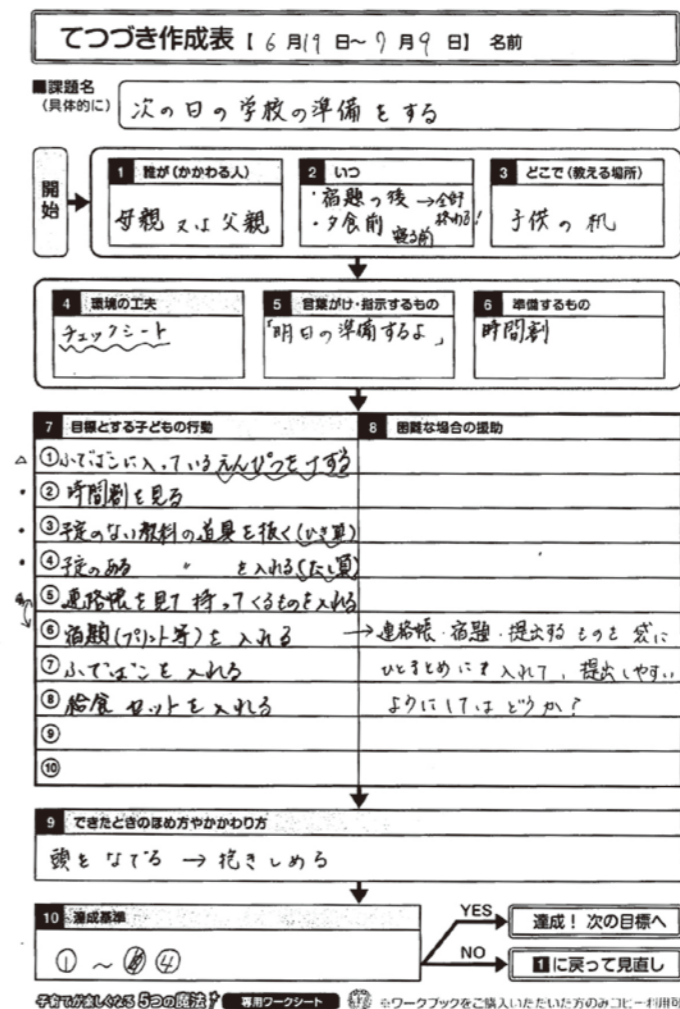


図2 参加者が作成した療育プログラムの例

	7/5 日	7/6 月	7/7 火	7/8 水	7/9 木
1. えんぴつをけずる	○	△	△	△	△
2. じかんわりをじゅんぴする。	◎	◎	◎	◎	△
3. ひきざん する。	○	◎	◎	◎	△
4. たしざん する。	◎	◎	◎	◎	△
5. れんらくちょうを見て、持ってくるものを入れる。	—	△	◎	◎	△
6. れんらくちょう・しゅくだい <small>（複製）</small> を入れる。	△	◎	◎	◎	△
7. ふでばこを入れる。	◎	◎	◎	◎	△
8. 給食セットを入れる。	△	△	△	◎	△

図3 参加者が家庭で記録した例

#### 4. 鳥取大学方式に関するエビデンス・論文

##### 学術論文

高階美和・内田敦子・犬飼陽子・井上雅彦（2008）保健センターの親子教室参加者を対象とした発達に気になる子どものペアレント・トレーニング。発達心理臨床研究（兵庫教育大学発達心理臨床研究センター），14, 17-25.

式部陽子・橋本美恵・井上雅彦（2010）保健師を中心にした発達の気になる子どものペアレント・トレーニングの試み。小児の精神と神経 50(1), 83-92.

井上雅彦・野村和代・秦基子（2008）子育てが楽しくなる5つの魔法。アスペ・エルデの会。

井上雅彦（2012）自閉症スペクトラム（ASD）へのペアレント・トレーニング（PT）発達障害医学の進歩 24. 診断と治療社，30-36.

井上雅彦（2012）自閉症スペクトラムに対するペアレント・トレーニング。小児の精神と神経，52(4), 313-316.

松尾理沙・野村和代・井上雅彦（2012）発達障害児の親を対象とした PT の実態と実施者の抱える課題に関する調査。小児の精神と神経 52(1), 53-59.

松尾理沙・井上雅彦（2012）思春期の発達障害児を持つ親のためのペアレント・トレーニングプログラムの開発。発達研究（発達科学研究教育センター紀要）26, 185-190.

井上菜穂・井上雅彦（2013）発達障害の家族支援の第一歩 - 鳥取県におけるペアレント・トレーニングの取り組み -。地域保健 44(4), 60-67.

##### 学会発表

松下美加子・井上雅彦・岡嶋尚子・岸下弥生（2003）発達障害のある子どものペアレント・トレーニングに関する研究（1）-指導プログラムの流れと精神健康度の変化-。日本特殊教育学会第41回大会発表論文集，540.

岡嶋尚子・井上雅彦・岸下弥生・松下美加子（2003）発達障害のある子どものペアレント・トレーニングに関する研究（2）-指導プログラムの効果の分析-。日本特殊教育学会第41回大会発表論文集，541.

井上雅彦・木戸ルリ子・藤坂龍司・松下美加子（2004）発達障害のある子どものペアレント・トレーニングに関する研究（3）-WEBでのサポートを併用した指導プログラムの効果について-。日本特殊教育学会第42回大会発表論文集，463.

木戸ルリ子・藤坂龍司・松下美加子・井上雅彦（2004）発達障害のある子どものペアレント・トレーニングに関する研究（4）-高機能自閉症群と知的障害を伴う自閉症群の比較-。日本特殊教育学会第42回大会発表論文集，464.

井上雅彦（2004）発達障害のある子どものペアレント・トレーニング-個々の保護者のニーズにあわせた支援を行っていくために-。日本行動療法学会第30回大会発表論文集，322-323.

平山菜穂・井上雅彦・奥田健次・村川和義・島宗理・大久保賢一・橋本俊顕（2004）自閉症児における短期集中訓練とペアレント・トレーニングの効果。日本小児科精神神経学会第91回大会。小児の精神と神経 44(3), 271.

井上雅彦（2004）自閉症児を持つ家族に対する家庭療育支援-ペアレント・トレーニングの適用効果をめぐって-ラウンドテーブル企画・司会・話題提供 日本発達心理学会第15回大会発表論文集，143.

犬飼陽子・井上雅彦（2005）発達障害のある子どものペアレント・トレーニングに関する研究（5）-自閉症・発達障害支援センターにおける間接支援としての効果の検討- 日本特殊教育学会第43回大会発表論文集，310.

木戸ルリ子・井上雅彦・平山菜穂（2005）高機能自閉症児を持つ親へのペアレント・トレーニングの効果。日本特殊教育学会第43回大会発表論文集。

犬飼陽子・井上雅彦（2007）早期発達支援機関における発達の気になる子どもへのペアレント・トレーニング-保健所および児童通園施設のスタッフをファシリテータとしたプログラム効果の検討-。日本特殊教育学会第46回大会発表論文集。

高階美和・犬飼陽子・井上雅彦（2007）保健センターの親子教室参加者を対象とした発達の気になる子どものペアレント・トレーニング。日本特殊教育学会第46回大会発表論文集。

AIKA TATUSMI, KAZUYO NOMURA, MASAHICO INOUE, MASATUGU TSUJII(2008) Parent Training for Parents of a Child with Asperger's Syndrome and High functioning Autism. 8th Pacific Regional Congress of International for Group Psychotherapy and Group Processes. p1-19.

松尾理沙・井上雅彦（2010）発達障害児の親を対象としたペアレント・トレーニングの指導者とその支援ニーズに関する調査。日本小児精神神経学会第104回大会発表論文集 42.

井上雅彦（2011）「ペアレント・トレーニング」を地域での実践に広げるために - スタッフ養成の取り組みから -。日本特殊教育学会第49回大会発表論文集 7.

野村和代・秦基子・松尾理沙・井上雅彦・山村淳一・杉山登志郎（2011）地域の保健師・専門職に対するペアレント・トレーニング実施運営の研修・コンサルテーションの効果について。日本小児精神神経学会 105回大会発表論文集。

Inoue MASAHIKO (2011) Effectiveness of group parent training for mothers of children with developmental disorder, Association for Behavior Analysis International 6th International Conference.

MASAHIKO INOUE (2011) Family support programs of ASD Joint Academic Conference on Autism Spectrum Disorders 日米自閉症スペクトラム研究会議

井上雅彦 (2012) 発達障害児の親に対するグループペアレント・トレーニングの効果 - 課題達成とメンタルヘルスの分析 -. 日本小児神経学会第 54 回大会発表論文集.

井上雅彦 (2012) 発達障害とペアレント・トレーニング. 日本小児精神神経学会第 107 回大会発表論文集.

井上雅彦 (2012) 自閉症スペクトラムのペアレント・トレーニング. 小児精神神経学会第 107 回大会発表論文集.

料崎智秀・澤勝也・柿本綾香・矢部達也・岡崎奈津・濱田実央・尾田まゆみ・上畑智子・

井上雅彦 (2012) 広汎性発達障害児の親に対するペアレント・トレーニング-親子でのボードゲームを活用した SST に焦点をあてたプログラムの効果の検討 -. 日本行動分析学会第 30 回大会発表論文集 112.

井上雅彦 (2012) 「ペアレント・トレーニング」の課題とこれから - ペアとれ先駆者の実践から今後の展望を探る -. 日本行動療法学会第 38 回大会発表論文集.

井上雅彦 (2012) 児童精神科における親支援プログラムの展望 - 発達障害のある子どもの親支援プログラムとそのバリエーションの拡大 -. 日本児童青年精神医学総会第 53 回大会発表論文集.

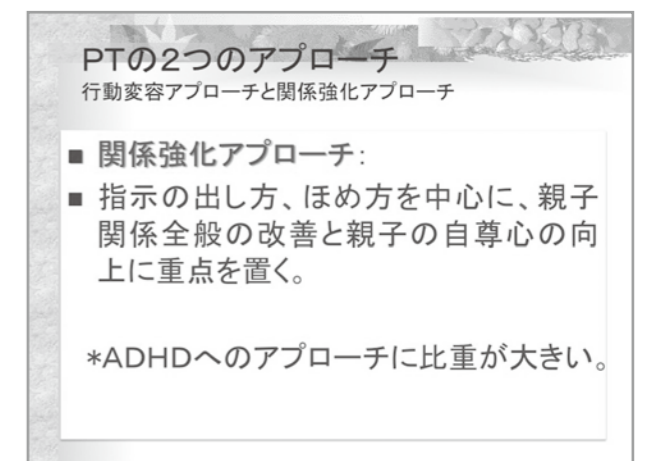
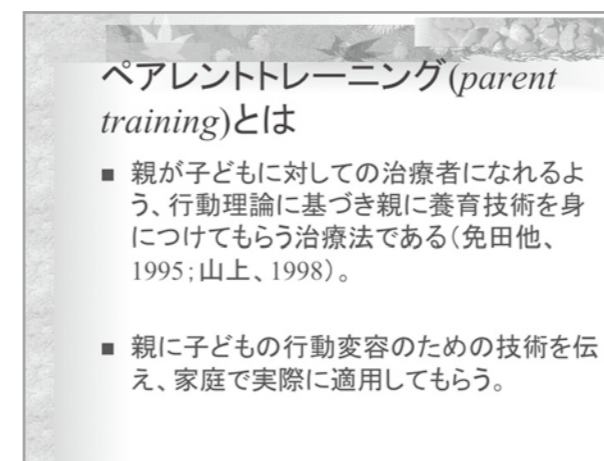
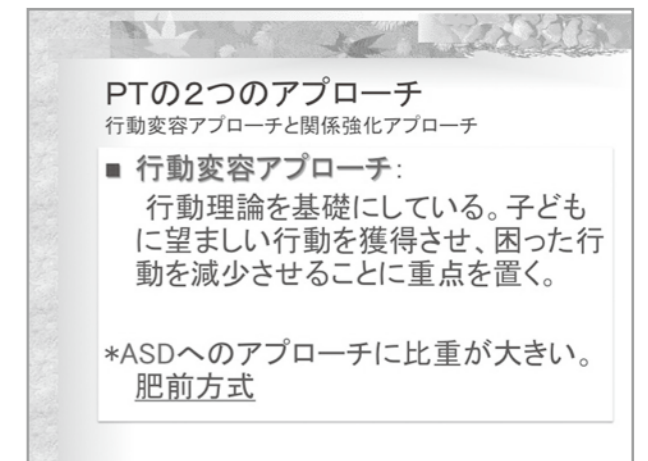
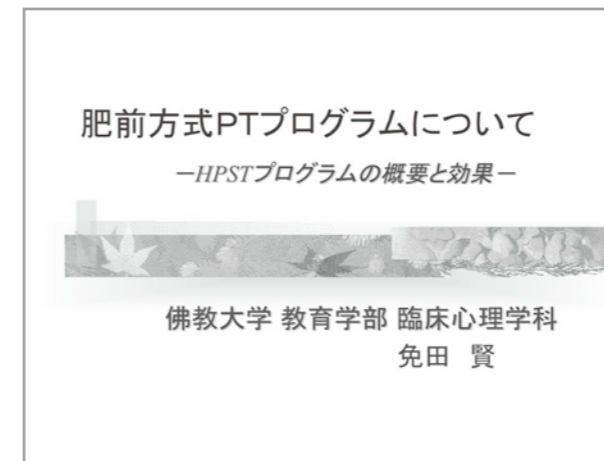
## 5. 文献

Bondy, A. S., & Frost, L. A. (1994). The picture exchange communication system. Focus on Autistic Behavior, 9(3), 1-19.

Brookman-Fraze, L., Stahmer, A., Baker-Ericzen, M. J., & Tsai, K. (2006). Parenting interventions for children with autism spectrum and disruptive behavior disorders: Opportunities for cross-fertilization. Clinical Child and Family Psychology Review, 9, 181-200.

Lovaas, O. I., Koegel, R., Simmons, J. Q., & Long, J. S. (1973). Some generalization and follow-up measures on autistic children in behavior therapy. Journal of Applied Behavior Analysis, 6, 131-166.

## 肥前方式PTプログラムについて —HPSTプログラムの概要と効果— 免田 賢 (佛教大学 教育学部 臨床心理学科)



### 肥前方式親訓練プログラム HPST(Hizen Parenting Skills Training)

- 1991年に開発。発達障害の子どもをもつ親が対象。
- 3か月、10セッション(短縮版5セッション)からなる。
- 対象児の年齢は、3歳～12歳。
- 行動療法の理論と方法を基礎にしており、行動変容アプローチに立つ。

### 肥前方式PTプログラムの特徴②

- 子どもの行動全般や、親子関係そのものを対象とするより、目標行動(標的行動)を2行動と決め、その行動を観察記録してもらう。
- その上で、親に様々な対応の工夫や、環境の調整をおこなっていただく。
- スタッフは、親の努力や実践を賞賛し、実際に子どもの行動が変容しやすいように助言をおこなう。

### HPSTプログラム-セッション内の配慮

- 専門用語は用いない
- チーム全員で講義を分担する
- 親だけが自由に話せる時間を組み込む
- 後半、グループを超えて親同志意見を交換できるようにする
- グループの親の構成を配慮する
- グループのスタッフ構成も工夫する

### 肥前方式PTプログラムの特徴④

- プログラムは、行動理論をこれから学習しようとするスタッフ養成を兼ねている。親に行動理論の基本を説明し、それを家庭でどのように実践できるか、親とともに考えてもらうことで、スタッフ研修の場となっている。
- 基礎理論は、行動理論と統一されているため、定型発達児、発達障害児、様々な心理的困難を有する子どもにも適用が可能である。

### 肥前方式PTプログラムの特徴①

- 肥前方式では、グループ全体での講義と小グループでの家庭記録に基づいた話し合いの2形式から構成される。
- 講義では、応用行動分析、行動療法の基礎理論の基本を説明する。
- 小グループの討議では、講義で学んだ内容を家庭でどのように用いるか、スタッフの進行のもと、親同士が意見を出し合う。

### 肥前方式PTプログラムの特徴③

- スタッフは、セッション初期には親の願いや困り感を傾聴し、共感するように工夫する。
- その中で、親がこれまでにこなってきた努力や工夫をねぎらい、その気持ちを話題にする。
- そこから、親が取り入れやすい方法や、試してみたい工夫を見つけ出し、家庭で実行してもらうように親を励ます。

### HPSTプログラム-グループでの配慮

- 成功しやすい行動を選択する
- まず、親のやり方をほめること
- 子どものポジティブな変化を強調する
- 家族のスタイルに合わせる
- 当初の行動目標を確認する
- 記録は、他の親の方法も参考にしてもらう
- 電話やメールでの相談にも応じる

### 肥前方式PTプログラムの特徴⑤

- プログラムは、行動の観察のしかた、記録のしかたを親に説明するところから始まる。親に行動のアセスメントを伝えるため、親に子どもの変化を量的に実感してもらうことが可能である。
- また、子どもへの工夫が仮説検証の形をとっているため、親やスタッフにとって、効果が実感しやすい。

### エビデンスに基づいた機能獲得アプローチ

私たちは、学習を通して様々なことを身につけている。親としても同様である。  
親が子育ての仕方を工夫できれば、専門家以上に子どもの様々な問題に対応できるのでないか。

機能獲得アプローチ、スキル習得モデル  
心理教育モデル、ピアサポートモデル

### プログラムへの応募・紹介経路

- 一般公募 新聞の地方欄への掲載
- 案内書郵送 県内外の保育所・幼稚園、関係諸機関
- 他機関からの紹介 児童相談所、病院(耳鼻科・小児科)、学校関係
- 口コミによる紹介 母親からの紹介

### セッション内の工夫

#### セッション1: 概論

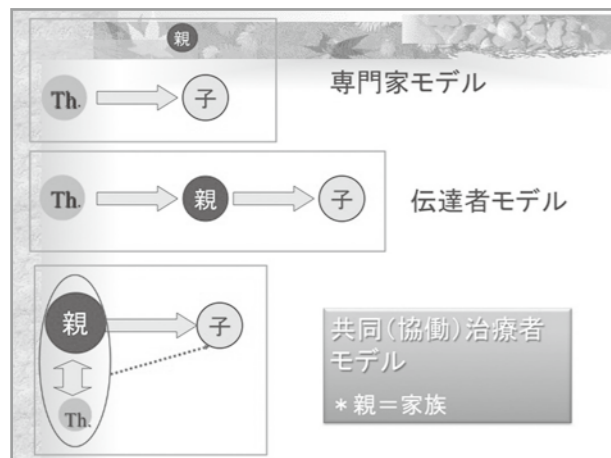
- 親は専門家よりも有能な子どもの治療者になれるということ。
- 耳慣れない言葉、聞き慣れない用語、キーワードがあること、を強調する。
- 親、スタッフの自己紹介、このプログラムに参加することで、どんなことが期待できるか、説明する。

### HOMWORK 1

2001. 4. 17

子どもの氏名

1. 読みたいこと(読書)を書きつけてください。  
読みたい理由も書いてください。  
2. 時間を考えること(学校、塾、習い事、睡眠)  
3. 授業中の態度  
4. 自分の部屋の片付け  
5. 宿題をやめさせること  
6. 一人でおいかけ
2. 読みたいこと(読書)を書きつけてください。  
読みたい理由も書いてください。  
4. 公園の場で 遊ぶ予定。  
1. 1人だけの時 手を止ませず、(おもちゃを)  
2. 完全解決をせずに 道場を 換わる。  
3. 人の話を聞いていないように 感じる時がある。  
3. 食事の だらだらと 好き嫌い。



### さあ、『学習室』がはじまりました！

新しい考え方、新しい方法、耳慣れないことばなどで、とまどわれるお母さんもおられることでしょう。  
途中でスタンプに見舞われる方も、きっといらっしゃるはずです。

#### でも大丈夫です！！

学習室がめぐる場には、

- ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
- ☆☆ 観察上手なお母さん ☆☆
- ☆☆ ほめ上手なお母さん ☆☆
- ☆☆ 教え上手なお母さん ☆☆
- ☆☆ 工夫上手なお母さん ☆☆
- ☆☆ 待ち上手なお母さん ☆☆
- ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

に、何事もおまかせください。

無難に、無気力の方には、  
目標として「いいもの……」を、  
プレゼント致します。お楽しみに。

### 3. お母さんが家で困っていることは何でしょうか？

- ①「親」の話を聞いてほしい。(お話をよく聞くことが出来る子どもは全身を耳にします)
- ②夜一人で寝る準備を出来るようになってほしい。
- ③家での食事の時に、席を立たずに静かに出来るようになってほしい。  
家での食事戦争を終わらせたい！
- ④兄弟(お友達)と仲良く(ケンカにならずに)遊べるようになってほしい。
- ⑤宿題(本読み、漢字、算数など)をやってほしい。家での宿題戦争をどうにかしたい。
- ⑥時間内に(登校、外出、入浴など)の用意が出来るようになってほしい。
- ⑦自分の持ち物をなくしたり、忘れ物が多いのをどうにかしてほしい。
- ⑧お店(スーパー、デパート、銀行など)に行った時に静かにしてほしい。
- ⑨外食(ファミリーレストランなど)で静かにしてほしい。
- ⑩親が電話をかけている時に静かにしてほしい…など。

### セッション2 行動の観察と記録

- 子どもの行動をよく観察しましょう。
- そして、行動を具体的に言い表しましょう。
- 目標行動をひとつに決めます。
- 行動が具体的なほど、具体的な工夫と対応がしやすくなります。

目標が明確になったら、8割達成したのと同じ

## セッション2: 観察と記録

- ☆「どのようにしてるか、見てきてください」  
「どんなに大変か記録してきてください」
- ☆宿題を通して、子どもができる最低ラインを確認する。
- ☆親の観察眼を賞賛する。現在とっている、親の対応と努力をねぎらう。
- ☆親の願いにのる。漠然とした希望もそのまま聴く。これを少しずつ具体的にしていく。

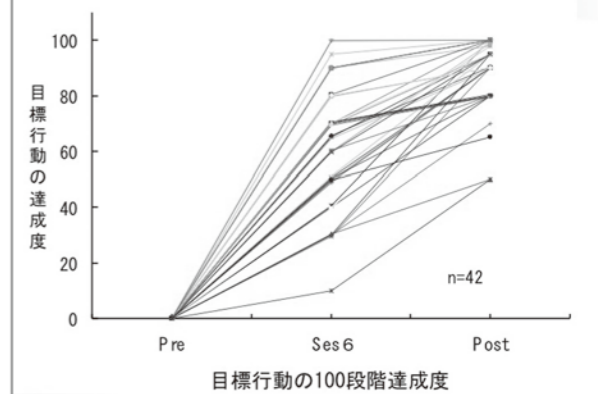
## 記録のこつ

- 目標をはっきり決めておくと、目線がぶれません。必ず書きましょう。
- よかったとき、何がよかったのか、そこに注目しましょう。
- できなかったところだけ書くよりも、ちょっとでもできたところを必ず書く。
- ほめたところをひとつ、見つける
- 親がそのときどうしたか、対応を記録することは重要です。

## 効果のアセスメントー親ー

- 養育上のストレスに関する質問紙  
Questionnaire on Resources and Stress (QRS) 52項目
- ベックうつ評価尺度  
Beck Depression Inventory (BDI) 21項目
- 満足度評価 (Consumer Satisfaction)

## 目標行動の100段階達成度



## 目標行動の決め方(スタッフ)

- 短い時間で達成できそうなゴールを設定する。
- 短いゴールほど、具体的な手続きと段取りが明確になる。
- 子どもも親も達成できた自信がつく
- 長時間かかるゴールであれば、下位目標の連鎖に分解する。

## セッション3: 望ましい行動の増やし方

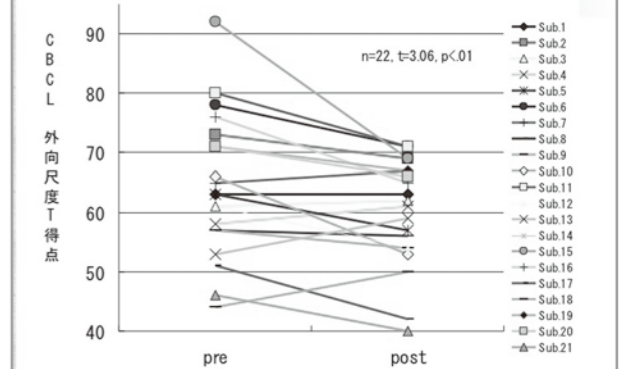
- ☆行動のあとに、望ましい結果が起こるとその行動は増える
- ☆行動のあとに、賞賛や楽しみ(ポイントやシール)をどのように与えるかを説明する
- ☆ほめ方、ごほうびの与え方の具体的な方法を伝える

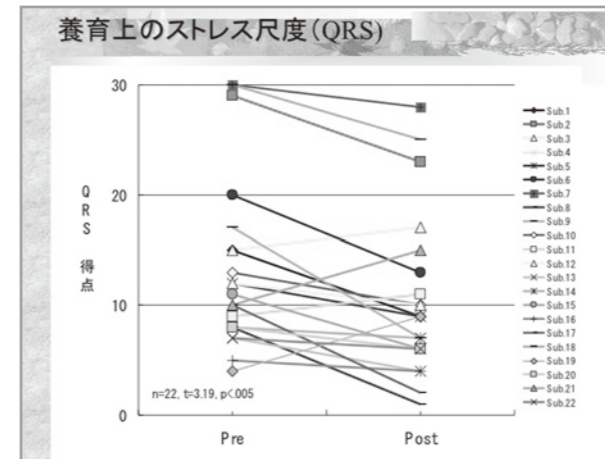
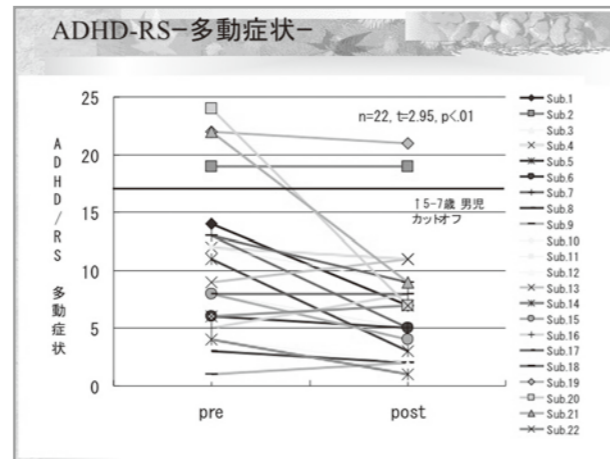
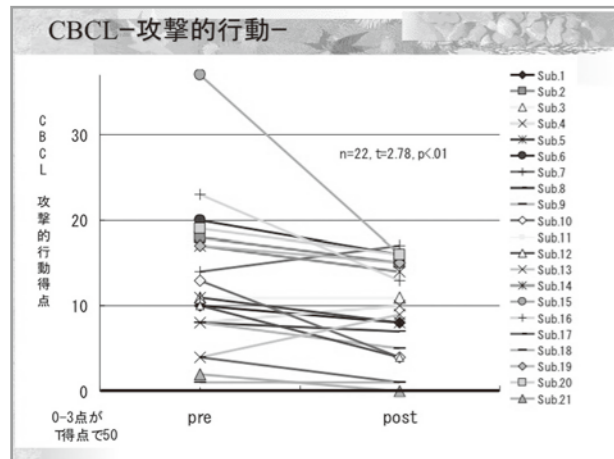
## 目標行動の具体例と使用技法

	目標行動	技法
症例1	靴下がはける	教材の工夫(台紙)、強化(食べ物)
症例2	食べ歩きを0にする	DRO(一二次性強化)
症例3	決められた時間に食事をする	レスポンスコスト(時間を過ぎたら食事は次まで)
症例4	食事中に寝ころばない	DRO、強化子の変更
症例5	食事にうろろしない	行動手順の明確化、強化
症例6	食事中にうろろしない	環境・時間の構造化、タイマーによる強化
症例7	買ってほしいときにだだをこねる	計画的無視、DRO(かんしゃくなければ強化)
症例8	おもちゃを結ぶ	行動契約、トークンシステム
症例9	食事中の離席	教材の工夫(視覚化)、強化
症例10	箸の使用	自然軽快
症例11	お絵かきができる	環境調整(スプーン類を片づける)
症例12	食事中に離席する	自然軽快
症例13	妹へかんしゃくを起こす	DRO(一二次性強化)、リマインダー
症例14		一二次性強化からトークン、リマインダー

※対象者の一部を抜粋

## CBCL-外向尺度T得点

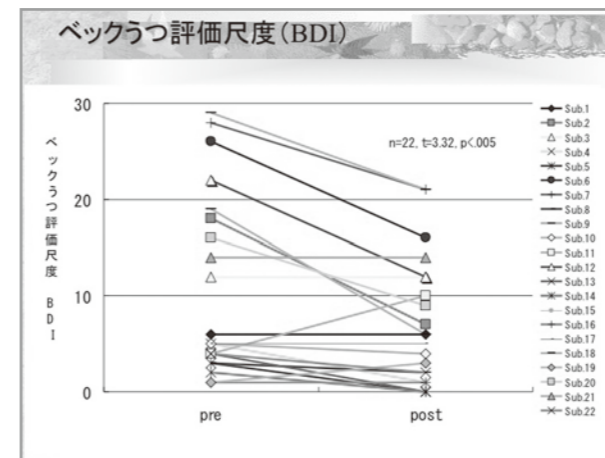
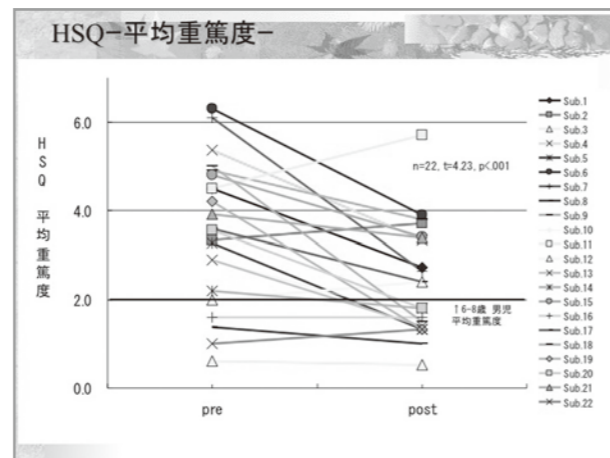
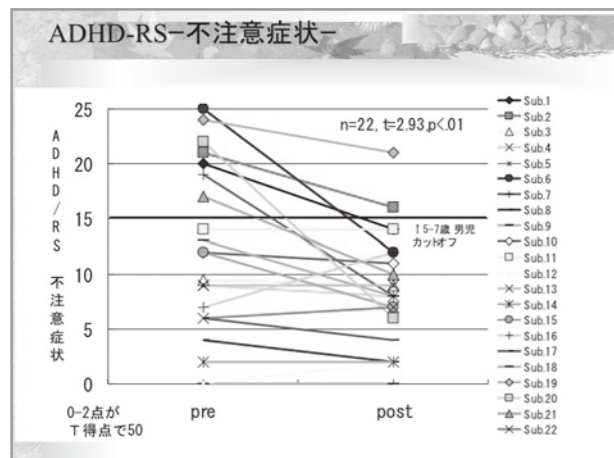




**親子の相互関係への効果**

■ 評価方法

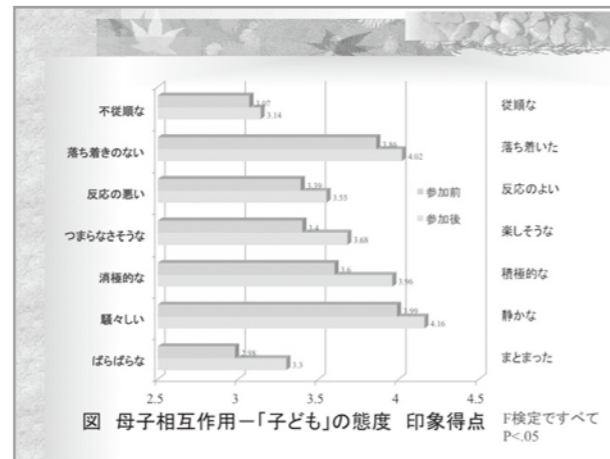
1. 評価時期と評価場面  
プログラム開始前後の2時期の各々3分間の母子のボール遊び場面
2. 評価者  
研究の目的を知らない50名の大学生



**親子の相互関係への効果**

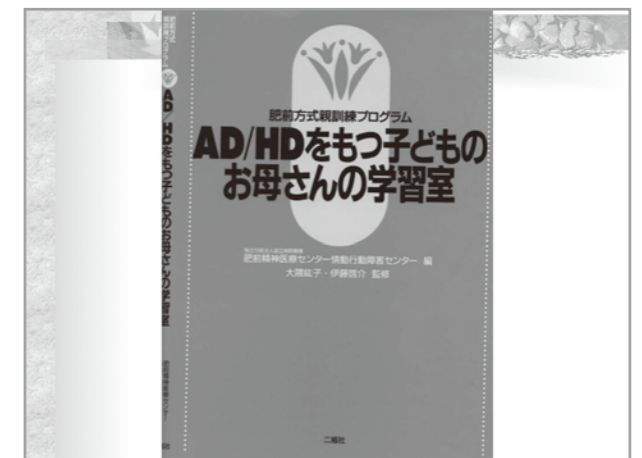
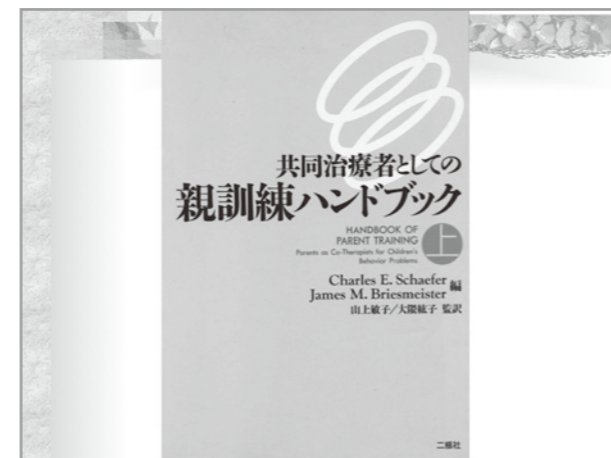
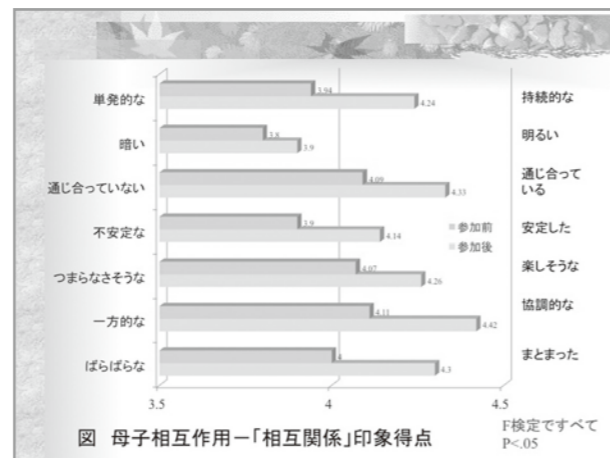
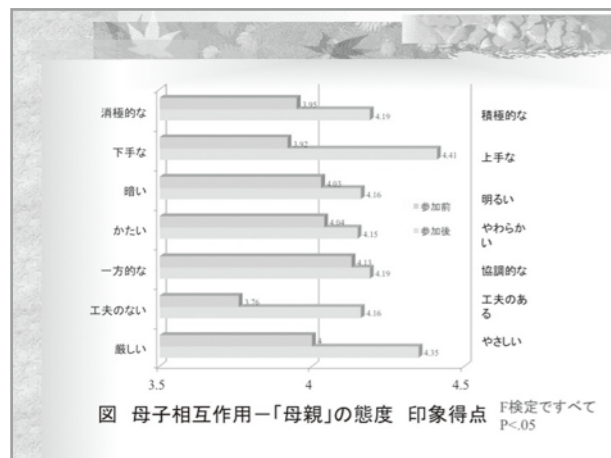
3. 評定尺度  
「母親」「子ども」「相互関係」の3側面に  
関する形容詞対の7段階尺度
4. 手続き  
参加前、参加後の順序をランダムにし  
て評価させる





### まとめ

- AD/HDのためのHPSTプログラムは、子どもの目標行動の改善、AD/HDの多動、不注意症状、行動問題の改善に効果があった。
- また、プログラムは親の養育上のストレス、うつ状態の軽減にも有効であった。
- 今後は、インクルージョンの視点で学校プログラムの開発を予定している。



行動分析を基礎とするペアレント・プログラムが有効となるために

免田 賢 (佛教大学 教育学部 臨床心理学科)

親支援でよく使う引用

- 「やって見せ、いってきかせてさせてみて、ほめてやらねば人は動かぬ(山本五十六)」
- 「可愛くば、1つ叱って3つほめ、5つ教えて良き子にせよ(俚諺)」
- まずほめる、必ずほめる、時々ほめる、忘れずほめる
- ささいなことを喜べる能力
- 「1000歩の階段は、999段から」

ペアレント・トレーニングの効果と普及について

行動分析を基礎とするペアレント・プログラムが有効となるために

佛教大学 教育学部 臨床心理学科  
免田 賢

PTにおける3モードの知

モードA	モードB	モードC
子どもの行動変容理論、技法の研究	親をトレーニングする治療の要因、効果研究	スタッフ養成、地域浸透に向けた効果研究
普遍性 個別志向 スペシャリスト ミクロな関係 臨床の視点	↔ 対立ではなく、連続線	地域性 システム志向 ジェネラリスト マクロな関係 教育の視点

発表者のこれまでの取り組み

- 1991年に肥前方式親訓練HPST(Hizen Parenting Skills Training)プログラムの開発と実施。
- 1998年、ADHDに対するプログラムの開発と実施
- 2004年、吉備国際大学におけるペアレントトレーニングの実施。
- 2008年、佛教大学四条センターにおける一般講座方式の親訓練の実施。STPとのタイアップによる親訓練の実施。

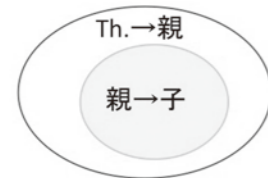
ペアトレは卵に似て、二重構造になっている(メタ治療)

- 親は、子どもに対して行動技法を用いて子どもの行動変容をおこなう。
- 治療者は、親の変化を促進し、親の行動変容をおこなう。

ペアトレの卵

ペアトレには、白身と黄身の自由さがある

- 黄身の部分をどのようにするか、
- 白身の部分をどのようにするか、(カウンセリングや認知療法のような対応もある)



### 白身と黄身のどこが違うか

- 白身のところは、治療者が親に介入を行うところである。



治療者は、2つの機能において親を変容させ、強化する

### ペアトレの親にとっての魅力1

機能 I	機能 II
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 気軽に参加できる</li> <li>• なんでも悩みを聞いてもらえる</li> <li>• ほかの親たちと交流できる</li> <li>• 参加するのが楽しみである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どうすればいいのかわかった</li> <li>• 子どもが変わった</li> <li>• 効果的な方法を知ることができた</li> </ul>
情動焦点型の対処スキルの提供	問題解決焦点型の対処スキルの提供

### プログラムの機能

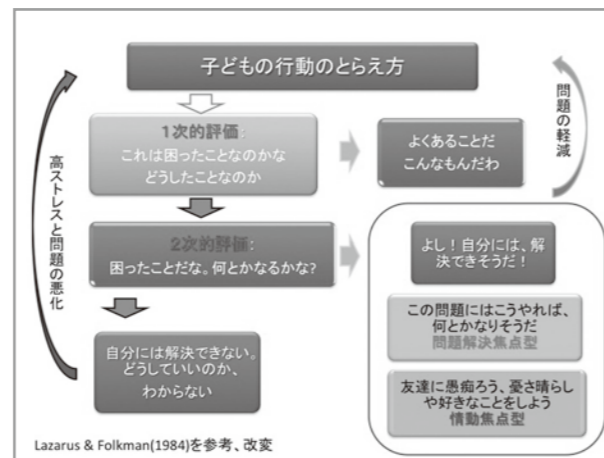
機能 I	機能 II
<ul style="list-style-type: none"> <li>• プログラムの魅力度(インセンティブ)を高める</li> <li>• 短期間</li> <li>• 参加しやすい場所と時間帯</li> <li>• 受容的な雰囲気</li> <li>• 友好的な仲間関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行しやすい方法</li> <li>• 実施後、子どもに効果が現れやすい行動</li> <li>• 変化が明確な目標</li> <li>• 効果的な方法</li> <li>• 親のニーズに合った方法</li> </ul>
機能 I は、プログラムの魅力 機能 II は、プログラムの効果	

### 白身と黄身のどこが違うか

- 黄身のところは、親が子どもに行動介入を行うところである。



親の効果的な対応により、子どもの行動は変化する。  
そして、子どもの行動変化により、親は強化される。

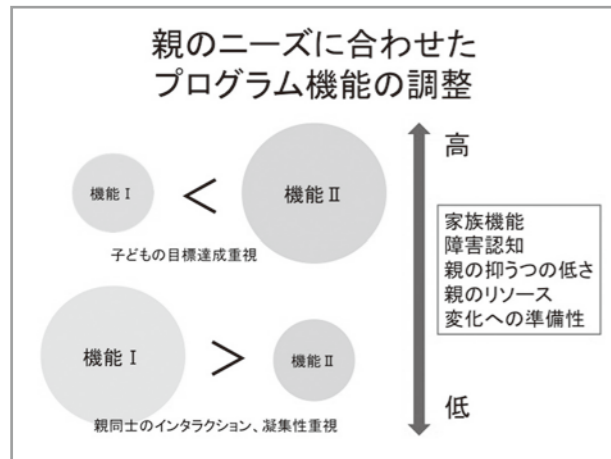


### ペアトレの親にとっての魅力2

機能 I	機能 II
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 他の親と出会えること</li> <li>• 困りごとを共有すること</li> <li>• 治療者が悩みを聞いてくれること</li> <li>• 自分の気持ちを話すこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもに関すること</li> <li>• 家庭での観察記録</li> <li>• 行動技法の実施</li> <li>• 講義の子どもへの応用</li> <li>• 対応の工夫</li> </ul>

### 機能 I と機能 II の指標

機能 I	機能 II
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 参加率</li> <li>• ドロップアウト</li> <li>• 欠席や遅刻</li> <li>• プログラムに対する満足度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 治療効果(短期・長期)</li> <li>• 親に対する効果指標</li> <li>• 子どもに対する効果指標</li> <li>• プログラムに対する満足度</li> </ul>
機能 I と機能 II には、強い関連がある よいプログラムは、2機能のバランスがとれている	

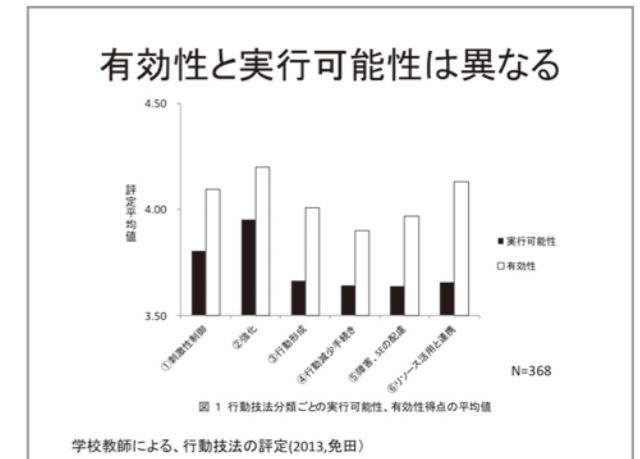
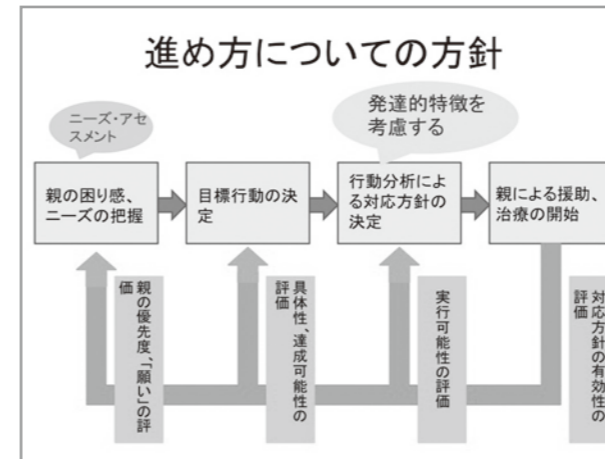


### 発達が気になる子どもをもつ親支援講座

発達大学教育実践部 免田 賢

身辺の未自立、問題行動がある、コミュニケーションがスムーズでない等、子どもさんの発達のことでお困りではありませんか。家庭で実際に工夫を行いつつ効果的な子育てを学びます。子どもの中心にいる親が工夫をすることで、行動が効果的に改善することがわかっていきます。ペアレントトレーニングにより、子育ての実践を共に学んでいきたいと思えます。5回すべてのセッションを通して参加できる方を募集いたします。

全5回 毎回木曜日 10:00~12:00



### 再び、行動分析の必要性について 機能 II の部分の役割

- 様々なPTプログラム
- 親子関係の改善か、子どもの行動変容か
- 障害特性の重視か、行動原理全般か。

行動理論、学習理論、行動変容技法がベースにあるのは共通である  
機能 II における行動分析が、親に受け入れられやすく、理解しやすく、実行しやすいものとする必要がある。

### 春期の講座内容

- 4月8日(木)** オリエンテーション講座で学ぶ子育ての考え方  
—行動原理に着目したペアレントトレーニング—  
オリエンテーションの後、子どもと参加者、スタッフの自己紹介をします。発達障害の概要、親が子どもの効果的な支援者となるペアレントトレーニングについて、紹介します。
- 4月22日(水)** 行動の観察と記録  
—目標行動を設定しよう—  
子どもの行動観察、行動のいい探し方、記録の方法について、具体的に学びます。スタッフと話し合い、実際に実施させる子どもの行動を決め、家庭での記録方法を検討します。
- 5月13日(水)** 行動の強め方、増やし方  
—強化と罰化—  
子どもの望ましい行動を新しく獲得させ、強める方法を学びます。子どもが好きなものを使ったり、ほめることで行動を増やす具体的な効果的な方法を、一緒に考えましょう。
- 6月3日(水)** 困った行動の減らし方  
—問題行動への対応と保護の工夫—  
子どもの困った行動は、発達特性と問題の対応や環境によって成り立っています。問題行動に対する工夫と技法を学びます。ご家庭にあった方法を話し合い計画を立てましょう。
- 6月17日(水)** 全体での話し合いと振り返り  
—お互いでの振り返りと今後の方針について—  
個別の対応や工夫を話し合い、今後の方針を決めます。全員で、子どもの目標や課題を共有し、様々な悩みをどう解決したか、効果工夫を話し合います。振り返りを促します。

### 猫に鈴をつける Bell the Cat

- ネズミたちが猫に対する自衛手段を話し合っているときに一匹のネズミが猫の首に鈴をつけることを提案します。  
良い考えだと皆が大賛成しますが、どうやって猫の首に鈴をつけるのかは、誰も答えられませんでした。

### 行動分析を教える利点①

- 標的行動を明確化させる
- 問題がこんがらがっているときは、漠然としていてどこから手をつけていいかわからなくなる
- 親のうつを概括化への反証
- プロダクトゴールとプロセスゴールを明確化させる。
- 取りかかりやすいところから、取りかかれるようにする。

### 小さな目標でも、その成功には様々な要素が入っている

- たった1つの行動の中に、今後の工夫のアイデアが詰まっている。
- 子ども独自の学習の仕方、成功したときのやりとり、対応のこつ。親の実感。
- こんがらがった毛糸も1つ解きほぐし方がわかれば、そこからたどっていく



### 行動原理に基づくPTの2つの視点

行動原理に焦点を当てる	具体的行動に焦点を当てる
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習理論、養育のメタスキルを重視。</li> <li>• 発達の観点に応じて柔軟に適用可能</li> <li>• 講義形式</li> <li>• 長期効果の重視</li> <li>• 基軸行動(pivotal response)の重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 領域固有スキル、年齢特有の問題。</li> <li>• 直面する問題、学校での問題、思春期特有の問題</li> <li>• 個別形式</li> <li>• 短期効果の重視</li> <li>• 行いやすい方法で、取りかかりやすいところから、小さな変化を実感できることから</li> </ul>

### 行動分析において克服すべき点

- 理論言語と日常言語の乖離
- 我が国においては、特に子育ての育児観という点で、文化的に受け入れられやすいといえない(偏見をもたれやすい)
- 行動のABC分析、または機能分析を正確に実行するのは、親にとって簡単とはいえない。

### 素朴行動理論の陥穽

- ほめることが、強化になっていないのにほめる。
- 記録が主観的なものだけからなり、親の認知と錯綜。
- 家庭での手続きの遵守(integrity)がとれていない
- 計画的無視:機能分析が不十分なまま実施。
- タイムアウト:「正の強化状況」からのタイムアウトだが、説明が省略。

### 行動分析を教える利点②

- 問題を行動という枠組みで、翻訳すること、客体化することの利点
- 行動理論、共通原理を獲得することの応用可能性
- →行動の般化、時間的般化
- 親自身の行動も同じ原理が働いていることへの理解と相対化

### 行動分析を教える利点③

- 理論が比較的シンプルである。
- 手続きの明確化、マニュアル化のしやすさ
- 理論的検証と応用効果について、長い歴史と高いエビデンスをもつ

### 親の行動分析も本当は必要

- 親が現在行っている対応について、機能分析が必要である。
- 子どもの場合と同様、望ましい対応行動を身につけてもらう。
- 親のよい行動はどこでどう伸ばすか、行動連鎖のきっかけは何かを見ていく必要がある。
- 親の認知が強く影響

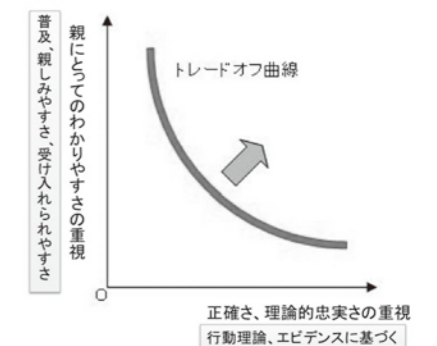


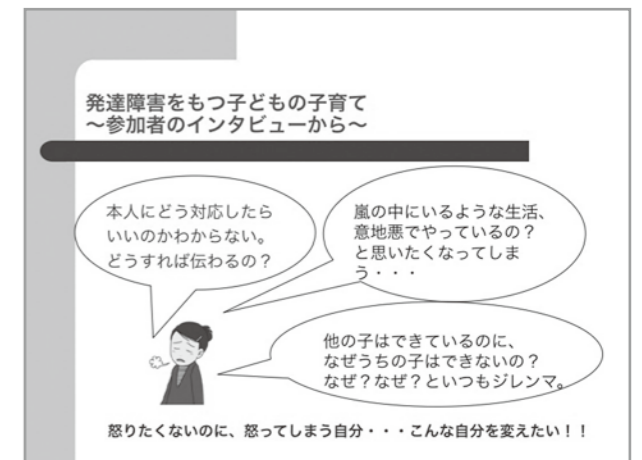
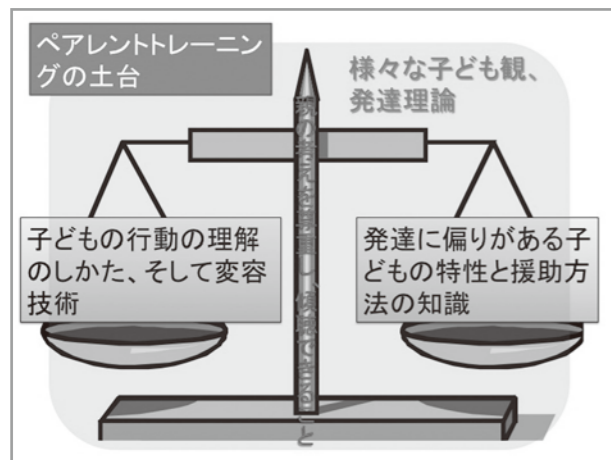
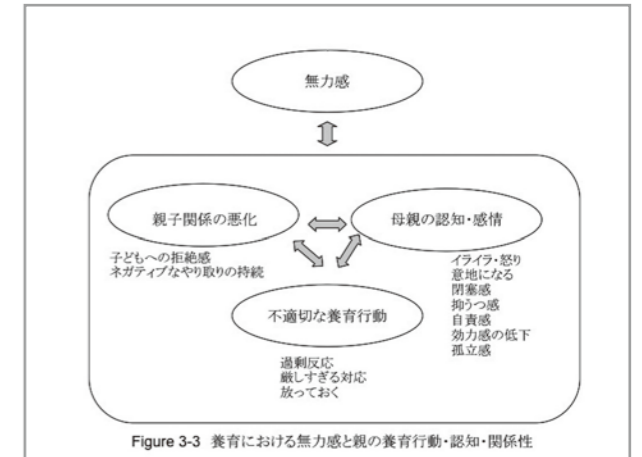
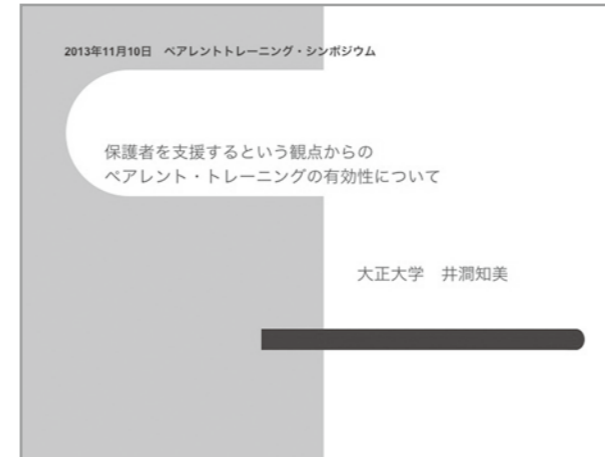
図8 技法の普及と理論的正確さのトレードオフ

今後のペアトレは、様々な親に受け入れられやすいもの

- 親が様々なもつ育児観、子ども観にも、受け入れられるもの。
- 発達の特徴を考慮に入れ、同時に行動理論の有効性を活用できるもの
- 実行しやすく、かつ効果が現れやすいもの

多層、多様なプログラムをもつこと

- プログラムレベルの水準化  
初級、中級、ステップアップコース
- 発達段階ごとのプログラム  
(乳幼児、就学期、思春期、青年期)
- 障害特性、親のニーズに応じたプログラム
- 様々なフォーマットと自由度



### 氷山モデルで考えてみよう

問題行動=水面に出ている行動

「水面下にかくれているもの」；  
はっきり目にみえない問題

Reprinted with permission from Ciba A. Eagle Studio

### 発達障害児のペアレント・トレーニングの目的

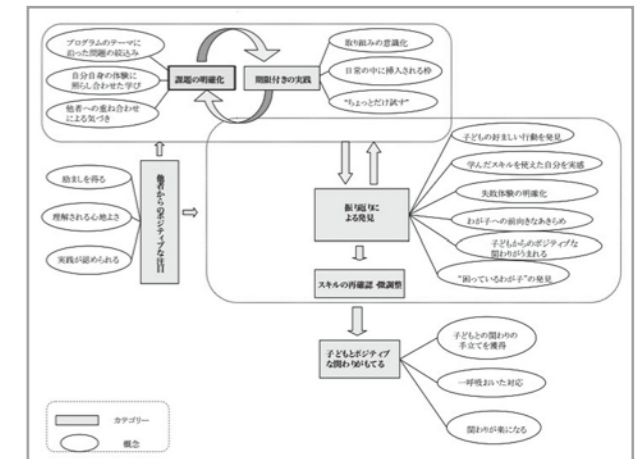
親が発達障害を理解し、発達障害をもつ子どもの行動を監督し、望ましい影響を与えるための技法がもてるように援助すること。

それは何のため？  
⇒親子のコミュニケーションを温かいものに。  
⇒親が笑顔で子育てできるように支援する。

### 結果I：調査票の得点の分析から

1. 介入前 (pre期) のペアトレ群とルーチン・ケア群の比較  
⇒該当児のプロフィールに有意な差は認められなかった。
2. 介入後 (post期) には、①両群ともにADHD関連の不注・多動・衝動性の重症度の改善、親が感じる日常生活での対応の困難さが改善していた。②CBCLでは平均得点では両群とも有意な差は認められなかったが、ルーチンケア群では半数が正常域に変化。
- ③養育行動、親の効力感はペアトレ群で有意に改善。

↓  
どのようなプロセスを経て変化のするのだろうか？



### 発達障害をもつ子どもの場合

理解ができない又は理解がずれているのかも？

コントロールがうまくできない

どうしたらよいかわからない

注意の向け方に問題があるのかも？

他の要因で不安・パニックになっているのかも？

### 多面的な治療のひとつ

治療の目標：障害によるマイナスの影響を最小限にし、子どもが本来もっている能力を発揮し、自己評価を高め、自尊心を培うこと  
多面的な治療 (ケア) を必要とする

薬物療法

子どもへの介入

教育場面での支援

親を支える (ペアレント・トレーニング)

### 変容プロセスの検討

—PTに参加することで発達障害児の親が子どもとの間にポジティブな関わりを獲得するプロセス—

目的：プログラムの効果として認められた養育に関するエフィカシーの改善について、「参加者が我が子との間にポジティブな関わりが持てるようになること」に絞り、その変容プロセスを明らかにする。

対象者：プログラムを終了した41名

データ収集法：半構造化面接および各セッション中の発言。

分析方法：修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) を用いて分析を行った。

### 結果II：変容プロセスの分析から

・変容の鍵は「振り返りによる発見」

子どもの好ましい行動を発見  
学んだスキルを使った自分を実感  
失敗体験の明確化  
わが子への前向きなあきらめ  
子どもからのポジティブな関わりがうまれる  
“困っている”わが子の発見

ペアレント・トレーニングの地域への展開とその課題

温泉美雪（神奈川県LD協会（神奈川県学習障害教育研究協会）子ども発達支援室）

**結果II：変容プロセスの分析から**

変容の鍵は「振り返りによる発見」

↑

自分が“発見”する。  
受身的 能動的、主体的なもの

保護者支援という観点  
PTの目的：“親の主体性を取り戻す”こと  
= 「なんとかやっつけていけそう」と親自身が思えること。



**ファシリテーターの役割**

変容の鍵は「振り返りによる発見」  
それに可能にするのは

① 「課題の明確化」・「期限付きの実践」  
それを支える協働者としての専門家  
“教える”“枠づくり（内容）”

② 「他者からのポジティブな注目」  
安心して振り返ることのできる場の提供  
“寄り添う（共感）”“枠づくり（場）”

**ペアレント・トレーニングの  
地域への展開とその課題**

温泉美雪  
神奈川県LD協会（神奈川県学習障害教育研究協会）  
子ども発達支援室



**本稿の内容**

ペアレント・トレーニング

- 肥前方式親訓練の特徴
- 障害を受容に及ぼす影響
- ペアレント・トレーニングの普及  
園や小学校への適用
- ペアレント・トレーニング普及の課題と配慮点

**肥前方式親訓練の原点**

- 重度精神遅滞と強度行動障害のある子どもの  
入院治療から（行動療法）
- これまで、入院の効果が退院後持続しない経験
- 退院後、入院中の行動変容の効果を維持させる  
模擬家屋で親子の過ごし方を学ぶセッション

⇒ 外来での親訓練プログラムの開発



**原点は強度行動障害の行動療法**

- 親を叩く行動問題が生じていた
- 行動分析 「母の姿」→「叩く」→「注目・関わり」  
叩く行動は、「親から注目を得る」、「親と関わる」  
という機能を有している
- 適切な注目の得方、関わり方、一人の過ごし方  
の再学習
- 環境調整、強化、消去の適用



### 肥前方式親訓練の開発

従来行われていたペアトレの形式を検討し開発

	集団のメリット	個別のメリット
集団か個別か	効率性、経験の共有、支え合い	子どもの発達特性や家庭環境に合わせられる
	講義のメリット	演習のメリット
講義形式か 演習形式か	効果が様々な行動に般化できる	実践的に子どもの行動や養育方法を理解できる

講義を集団に  
ホームワーク・実践検討を個別に

### セッション1

- 集団
  - ・参加者の自己紹介
  - ・講義：プログラムの概要の紹介
- ホームワーク(次回までにすること)
  - ・目標行動をリストアップしてくる

### セッション2

- 集団
  - ・講義：事例紹介
- 個別
  - ・目標行動を決める
- ホームワーク
  - ・好きなこと調べ(強化子候補をリストアップする)

### セッション4～6

- 集団
  - ・講義(行動の増やし方/減らし方、行動形成法、環境調整)
- 個別
  - ・目標行動について、工夫したことと行動の変化を知る(親から聞き取る)
- ホームワーク
  - ・目標行動の観察と記録

### 肥前方式親訓練の概要

- 週1回、2時間、10セッション
- 対象：知的障害、ADHD、広汎性発達障害
- 3～10歳
- 9人(スタッフ3人以上)
- ★ 目標行動を絞り込む
  - ◎発達特性や家庭環境に合わせる
  - ◎理論の習得に留まらない現実的な子どもの理解と対応
- ◎講義の効率性確保
- ◎親同士で経過共有(行動分析の機会↑)
- ◎親同士の支え合い(H.W.継続)

	集団	個別(小グループ)
1	概論	目標行動選択
2	事例紹介	強化子探し
3	観察の仕方(行動分析・課題分析)	
4	行動の増やし方(強化)	HomeWork
5	行動形成法(シェイピング)	家庭での実践の振り返り
6	環境調整	
7	行動の減らし方(消去)	
8	経過共有	個別と集団、講義と演習両方のメリット
9	経過共有	
10	経過共有	

氏名：\_\_\_\_\_

目標行動を決めましょう！

ターゲットにしたい行動

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

③ \_\_\_\_\_

※今回のターゲット

親が無理せずやれるかしら…？

あとちよつと工夫すればできるかもしれないなあ

### セッション3

- 集団
  - ・講義：行動の観察・記録の仕方
- 個別
  - ・目標行動のベースライン測定(親から聞き取る)
- ホームワーク
  - ・目標行動の観察と記録

### セッション7～10

- 個別
  - ・目標行動について、工夫したことと行動の変化を知る(親から聞き取る)
- 集団
  - ・成果の共有
- ホームワーク
  - ・目標行動の観察と記録

### 肥前方式親訓練の効果

- 行動問題の改善(目標の達成度は9割以上)
- 親の養育上の知識(KBPAC)の向上
- 親の子育てへの自信の向上
- 親の子育てストレスと抑うつ軽減

これらの効果は  
プログラム後1年維持

### 療育センターにて 隔週で実施 幼児対象に行った短縮プログラム

Ses.	講義内容	H.W.
(1)	基本的な考え方 先輩の取り組みの紹介	目標行動を決める 好きなこと(強化子)さがし
(2)	お子さんの行動の観察のコツ	行動を観察する
(3)	望ましい行動を増やすには・・・ 手助けの仕方、ほめ方のコツ	「手助け」や「ほめる」を実践
(4)	環境をととのえて 望ましい行動を増やそう	環境をととのえる
(5)	困った行動を減らすコツ	工夫を修正する、継続する
(6)	ふりかえり(成果の共有)	

### 目標:夕食の時間になったらごはんを食べる

**実践前**

- 夕食の時間はお腹いっぱいになっている(夕食の時間の前に食べたがる)
- 夕食の内容について、文句を言う
- 「●●を食べる」というから用意をしても「やっぱり食べない」と言う
- ごはんよりもおやつを欲しがってしまう
- 親子でイライラしてしまう

**実践内容**

- 「ご飯を食べたらおやつ」というルールを徹底した
- 夕食の時間帯を工夫した(19時から子どもが寝たいテレビがあるので、食べた終わったらテレビとなるように時間を早めた)
- 子どもが好きなメニューを一品入れるようにした。好きな一品は、リストの中から選びシールを貼った
- 残さずに食べたならシールをカレンダーに貼った。5枚貯まったら好きなおやつを買う約束をした

**実践後**

- 観察をしたら、思っていた以上に食べていることに気付いた
- 夕食の途中でおやつをせがむことがなくなった
- 子どもが文句を言わずに食べるようになった

**ここがスゴイ!**

子どものリクエストを受けつける手続きを決めたことで、お子さんも自分の選択に責任を持てるようになりましたね。楽しい食卓になって何よりです。

### ペアレント・トレーニングによる 発達特性の理解

- ペアトレを通し、親は子どもの変わりやすい行動と変わりにくい行動を知ることができる
- 親は、変わりにくい行動一すなわち発達特性を理解することができる
- 親は発達特性について、子どもの変化可能性と共に前向きに知ることができる

### ペアトレが最終的にめざすところ

- 行動の観察の仕方を学習し、子どもの行動を理解する
- 効果的な環境調整や対応方法を知る
- 成功体験を重ね、子育てへの自信を高める
- 新たな目標へ取り組みへ広げる

### 親子の変化(成果共有の際に使用するスライドの例)

#### 目標:朝の支度の後、テレビを見る

**実践前**

- 朝、食事中にテレビを見てしまうので、40分以上かかる
- 歯磨きと着替えを母がやっているにもかかわらず、支度に2時間もかかる
- 父がいると比較的スムーズ
- 母の具合が悪い時は、一人ですべて支度をする事ができる
- 朝から怒ってしまうので、親子でストレスになっている

**実践内容**

- 食事中はテレビを消すことを約束した
- スケジュール表を作り、食事が終わったらテレビが見られることを視覚的に示した
- 母が手伝うのは歯磨きの仕上げ磨き、着替えの際シャツの前後を確認することに決めた
- 終わった活動にチェックし、進行具合を子どもが確認できるようにした
- 終わったらテレビ+ママお手製カレンダーにシールを貼った。1枚5円で換算し、好きな物を購入した

**実践後**

- 朝の支度が30分程度で終わるようになった
- 今まで手伝っていた他の活動も自分でやる事が増えた
- 夜の活動にもスケジュールを導入する事ができた
- 父がいなくてもスムーズに支度ができるようになった

**ここがスゴイ!**

お母様が、お子さんの出来る行動を把握し、「自分で取り組もう」とはっきり伝えられたことが大きな変化をもたらしましたね。お子さんもやる気が出て何よりです。今後ますます出来る事が増えそうですね!

### 目標:登園前にハンカチ・ティッシュを用意する

**実践前**

- 毎朝、保育園や外に出かける前に、ハンカチ・ティッシュを確認しているのに、忘れてしまう
- 園の先生に借りることへの抵抗がない
- 兄を見て行動するので、兄がちゃんとやれば兄の真似をするのではないかと?

**実践内容**

- 玄関に、「ハンカチ、ティッシュ、歯磨き」と書いて絵を添え貼りだした。兄が声かけし、一緒に行った
- ハンカチ、ティッシュの置き場所を朝の行動の動線上に作った
- できたらシールを貼る。兄はシール1枚につきゲーム5分。本人は、シール2枚でアイスクリームと交換
- シール帳をすごろく形式にし、ゲームやアイスまであといくつ分かりやすく示した
- 父が詳しい準備を手伝ってしまっていたので、父には見守るようお願いした

**実践後**

- 兄が声かけすることによって、自分でやる気になった
- すぐにシールが貼られたので、シール5枚貯まったら、週末父と公園に遊びに行くことをごほうびにした
- 子どもに手を貸しがちな父もしっかり見守り、できたらほめるなど、子育てに理解を示し協力してくれるようになった

**ここがスゴイ!**

お兄さんやお父さんも一緒に、家族一丸となって取り組むことができ、素晴らしいです。だからこそ、ごほうびとしてお父さんのご協力も得られたのだと思います。素敵です!

### ペアレント・トレーニングの 園や小学校への応用

- ペアトレを効果的に活用できない親
- ・適切な目標設定には、発達特性理解が必要
- ・親の特性理解に応じ、子どもを支援する場を変えていく必要がある
- ペアトレの園・小学校への応用
- ・園や小学校で支援を行い、子どもの行動が変わることを親に知ってもらう
- ・親が支援の必要性を前向きに捉えられる